



〒614-8011 京都府八幡市八幡垣内山 47
Tel 075-981-2496 / fax 075-981-5896

この号の内容

【観光関連】

- 1 はじめに
- 2 高齢者の健康づくり
- 3 高齢者の健康づくり
- 4 観光への取り組み
- 5 【再】 高齢者の健康づくり
- 6 【再】 高齢者の健康づくり
- 7 【再】 観光への取り組み

はじめに

鷹野雅生議員 八幡みらいクラブの鷹野雅生です。

こうして質問席に立たせて、質問をさせていただく。

当たり前のように思っていることが、当たり前のようにできないことも

しばしば生じます。

長引くコロナ禍から学んだことでもありますが、今こうしてこの席から質問

できることは、大変ありがたいことだと改めて感じているところです。

“GASHINとは“

GASHINの心は鷹野雅生の雅を使い、私のいち早いお知らせの「信」であり「真」を述べ、私の「心」を語らせていただきたいと願っております。

コロナ禍の中運動
ワクチン接種
コミュニケーション

高齢者の健康づくり

ご承知のとおり我が八幡市は誰もが健幸で、健幸のこうは幸せの字を当てていますが、字のとおり幸せな健康のまち八幡を目標に掲げています。

今年の夏は、コロナ感染者が大変多い中でオリンピックが行われました。普通の状態でしたら競技場に駆けつけた方も多かったと思いますが、無観客でしたのでテレビの前での観戦となりました。

多くの感動を頂いたオリンピックに続いて、パラリンピックも終わりました。京都府では、緊急事態宣言が8月20日から9月12日まで発令されました。4回目の緊急事態宣言となります。他府県へ行かないように、お盆の帰省もできるだけ避けるように呼びかけが続きましたのでお盆には故郷へ帰ってお墓参りに行く、孫を見せに帰るなどの毎年目にしてきた新幹線や空港のにぎわい、高速道路の渋滞などの光景を見ることがありませんでした。逆に混むところが混んでいないひっそりとした光景を見ながら、日本人が大切にしてきた祖先を敬う心や自分の育った故郷を大切に、そこに暮らす親を思う日本人の心の大切さを改めて感じたところです。

このコロナ禍で、日本の文化にまでつながっていく大切なものが失われることになりはしないかと案じながら、テレビ画面を見ていました。パラリンピックもテレビ観戦です。3密を避けて、ソーシャルディスタンスを取りましょうの呼びかけは続き電車に乗っても、マスクの着用と話さないでくださいのアナウンスが流れています。全てがコロナ感染者防止対策です。遠くへ行かないように、人と話をしないように、これが日常生活です。

ワクチン接種が進んで重症者が減ると言われていますが、現在行われている日常生活が健康にどのような影響を与えているのか、重大な関心を持って見る必要があると思います。

運動不足も問題ですが、高齢者にとっては人と会わないように、しゃべらないように、これは特に高齢者にとっては一番必要なコミュニケーションを否定するものですから、一番必要な大切な機能を失わせることにつながりかねません。9月に入って敬老の日が近づいてきますと、高齢者に関する情報も増えてくると思います。

今、手元にある八幡市の情報では人口7万780人の中に65歳以上が2万1,892人で30.92%、80歳以上が5,573人、90歳以上が912人となっています。

そこでお伺いします。

* 高齢者の割合 八幡市内の傾向について *

京都府全体の中でほかの市町村と比べて八幡市はどのような傾向が見られるのか教えてください。

* 回答 *

高齢者人口の割合でございますが、本市の高齢化率は、令和2年3月末時点で30.9%、京都府内26市町村で13番目と中間に位置しており、今後も緩やかに上昇することが見込まれております。

また、65歳以上人口につきましては令和4年に75歳以上の後期高齢者が65歳から74歳の前期高齢者人口を上回ると推計しており、前期高齢者人口の減少、後期高齢者人口の増加が見込まれております。

コロナ禍の中運動
ワクチン接種
コミュニケーション

高齢者の健康づくり

長引くコロナウイルスの影響で、健康で幸せな八幡づくりを目指しながら、今は不健康な環境の中に置かれていると見なければなりません。健康への取組は基本的には個人の責任だと思いますが、行政の立場でできる限りの応援もしていただきたいのです。施政方針の中でも、今を自身の健康を再考する機会として、市民誰もが健康で幸せに暮らせるように、爽やか未来いきいき健康プロジェクトを推進してまいりますと述べておられます。

先ほども申しましたが、生き生きと生きていく上で特に高齢者にとって社会参加や運動、コミュニケーションなど重要な視点があるように感じており、市として様々な対応がなされてきたのではないかと考えております。

そこでお伺いします。

* ワクチン接種状況について *

現時点での高齢者のワクチン接種の状況について教えてください。

* 回答 *

高齢者のワクチン接種の状況でございますが、8月30日現在の国のワクチン接種記録システム（VRSシステム）の集計結果は、以下の通りです。

65歳以上の高齢者約2万2,000人	
1回目の接種を終えた方	1万9,326人（約87.84%）
2回目の接種を終えた方	1万8,613人（約84.6%）

* 健康事業などはどれくらいあるのか教えてください。 *

このコロナ禍において現在行政の立場で実施しておられる健康事業などはどれくらいあるのか教えてください。

* 回答 *

健康部では3年目となります八幡みらいいきいき健康プロジェクトのほか、高齢者の閉じこもり予防を目的としたはつらつ健康教室や今から始める筋トレ講座などがございます。

教育部では、ポールを使い歩くことで全身運動効果の高いエクササイズが可能とされているノルディックウォーキング教室、各施設や寺院などを歩いてめぐる市民ふれあいウォーキングなどがございます。

広報活動
アフターコロナ・ウィズコロナ
八幡ストーリー

観光への取り組み

私が観光についていつも申し上げていることは、八幡市にはきれいなところがたくさんありますので、呼びかけましようとは提案しているではありません。観光への取組はまちづくりです。

来たくなるまち、住みたくなるまち、魅力あふれるまちでないと、観光客は来てくれません。八幡市にはすばらしい場所、建造物、人がいっぱいいるのでそれを上手に組み合わせて広報し、八幡市を語り伝えるのが観光への取組です。徒然草エッセイ大賞の募集で、47都道府県から創設以来最多の作品が寄せられ、海外11か国・地域からの応募があると伺っております。今年度は、授賞式は仁和寺で予定されています。これなどは、コロナの今に対応した成功例だと思いますが、まだまだ知らない人のほうが多いです。

うまくいったものは広報を続けることが大切です。最新情報としてメディアにも送り続けてください。

長引くコロナの影響で、日本人の物の見方、捉え方から生活様式も変わりました。観光の形も変わっていくことが考えられます。有名な社寺や施設に大勢の観光客が訪れて、人の流れに乗って行動し、帰っていくツアーでは満足は得られないかもしれません。個々人が自分の興味関心に応じてゆっくり見て回られて、質問に答えてくれる人もいます。そのような観光を考えると、アフターコロナの観光には、本市は最適な観光地だと改めて感じます。

石清水八幡宮、松花堂庭園、美術館、流れ橋、背割堤、飛行神社、正法寺、善法律寺など知られた観光地がたくさんあります。しかしながら、現実的には多くの観光客は国宝の石清水八幡宮で留まることが多いのではないのでしょうか。せっかくよりよい観光資源があっても、なかなか周遊していただけない。私は幾つかの場所を周遊していただき、八幡市への滞在時間をできる限り長くしていただき、八幡市のよさを十分味わって幸せになってほしいと願っています。今も八幡ストーリーをはじめ自転車で回る、歩いて回るなどの観光ルートの設定、既存観光資源のVRやSNSでの拡散などにより、ほかの人に来たいと思わせる訴求力向上も挙げられておられます。

そこでお伺いいたします。

コロナ後の観光について。

アフターコロナ・ウィズコロナを見据えた個々人がじっくり滞在や周遊していただける観光について
お考えをお聞かせ下さい。

回答

この間の変異株の出現により、アフターコロナだけでなく、ウィズコロナにおいてもできることを取り組んでいく必要があると考えておりますが、いずれにしても議員ご指摘のとおり個人客がじっくり本市の魅力にある豊かな歴史文化を体感いただくためには、個々の観光資源を域内で連携し、しっかり磨き上げていかなければならないと考えております。また、一方で、市内のグルメなど特産品について新たな開発や事業者が連携しての発信も併せて取り組むことが必要と考えております。こうした考えの下、観光庁が公募しました域内連携促進事業に本市が実施主体として応募し採択されました。テーマを空中茶室閑雲軒と松花堂をテーマとした時空と観光の実証実験としており、予算を本会議に提案させていただいているところでございます。

健康づくり事業の推進
コロナ禍に対応した健康づくり
やわた未来いきいき健康プロジェクト

高齢者の健康づくり 再質問

高齢者の健康づくりについての再質問をさせていただきます。

各地域においては、これまでの間、講演会や研修会の開催、仲間づくりのためのウォーキングの会の活動、スポーツや各種運動のサークル活動や体操教室、男山登山など住民の自主的な活動で健康づくりが行われておりましたが、それぞれコロナの影響を受けて縮小したり、中止されたりしている現状ではないかと思っております。

このように健康づくりの機会が失われていく中で、市が率先してコロナ禍に対応した健康づくり事業を企画し、実施することが必要であると思えます。

今後の健康づくりの方針。

今後どのような方針で健康づくり事業を推進されていくのか、お考えをお聞かせください。

回答

コロナ禍に対応した健康づくり事業におきましては、感染症への対策が十分に取れて安全に実施できることが実施条件となります。やわた未来いきいき健康プロジェクトをはじめ、本市が推進しておりますウォーキングは、コロナ禍において安全に行っていただくことができる運動でございますので、引き続き進めてまいりたいと考えております。

また、会場に集まっていただくような事業につきましても、参加者の人数が事前に把握でき、感染症への対策を十分に取ることができる事業については、健康2次被害を防ぐためにも実施してまいりたいと考えております

高齢者の健康づくりについて

高齢者にとっては、健康づくりの活動や社会参加の機会は重要な意味を持ちます。

大切なコミュニケーションの機会でもあります。ワクチン接種も進んできておりますので、今後高齢者の健康づくりについてどのように対応していこうと思われているのか教えてください。

回答

高齢者の健康づくりですが、高齢者におきましては、若い世代と比較しまして、この間の外出自粛等による健康づくりの活動や社会参加の機会の減少による影響を大きく受けていると考えております。こういった背景から、緊急事態宣言中である現在も介護予防事業など高齢者向けの事業につきましては基本的に中止せず感染症対策を十分行った上で継続して実施している状況でございます。今後の感染症の動向が不透明であります。その時々状況に応じまして必要な対策を講じることができる場合については、引き続き実施してまいりたいと考えております。

健康づくり事業の推進

コロナ禍に対応した健康づくり

やわた未来いきいき健康プロジェクト

高齢者の健康づくり 再質問

市としても、健康というキーワードの中でコミュニケーションの重要性は認識されているかと思います。特にICTを活用することが難しい高齢者にとっては、外出を制限する中でコミュニケーションを取る機会が減少しているのではないかと思います。

市民への影響について

これらの現状や今後の市民の健康状態への影響について、市ではどのような見解をお持ちでしょうか、

回答

コミュニケーションを取る機会が減少していることについてでございますけども、昨年10月に実施いたしました健康まちづくり調査の分析結果からは、コロナ前後を比較して、家族と直接会って会話をする機会が減ったと答えた方が13.1%、知人や友人と直接会って会話する機会が減ったと答えた方が47.5%と高齢者に限らず直接会って会話する機会は減っている現状が見られます。

議員ご指摘のとおり、高齢者におきましてはICTを活用することが難しいことから、コミュニケーションの機会そのものが減っている現状がこの結果からはうかがえます。

また、アンケート結果からは、物忘れの頻度が増えている方も見受けられ、認知機能の低下から認知症の方が増えていくことが予想されます。これらのことから、先ほどご答弁でも申し上げましたとおり、市のとりわけ高齢者向けの事業につきましては、感染症への必要な対策を講じることができる場合につきましては事業を実施してまいりたいと考えております。

ありがとうございます。

コミュニケーションを取る機会は大切だと思っております。行政の取組として、時代のニーズでもある高齢者の健康を大切にすることが住みたくなるまちにつながっていくと考えております。

今、厄介なコロナウイルスが立ちはだかつております。高齢者のワクチン接種も進んでおりますが、まだまだ安心することはできません。早くコロナが終息することを願っております。

市としても、コロナの対策を一生懸命取り組んでいただいているわけですが、市民の皆さんにもできること、自分で自分を守ること、手洗い、うがい、マスクの着用、そして消毒液の使用などをしていただきまして、市も事業に対しての感染症への必要な対策を講じていただいて、積極的な事業の展開をできるように要望させていただきます。

空中茶室閑雲軒
新たなストーリーの展開
観光資源を磨き上げる

観光への取り組み 再質問

観光庁の事業をホームページで確認しましたが、第1次の採択は全国で243件、府内では4件しか採択されておらず、大変うれしく思います。

テーマが、私が度々質問させていただいた空中茶室閑雲軒ということも大変感動いたしました。これから具体的に取り組んでいただけることと思います。

どのような実証実験、実証事業になるのか期待いたしております。

また、地域に眠る観光資源を磨き上げる取組をしていただき、来訪者が増えるように、滞在時間の延長が図れるように、それらの効果が地域の消費拡大につながるように期待いたしております。

そこで質問をさせていただきます。

今後の八幡ストーリーについて

市民が住みやすいまちをつくっていくことが観光につながっていくと考えております。

シビックプライドにもつながる八幡ストーリーは高く評価をしております。今後の八幡ストーリーの展開やプロモーション、新たなストーリーの展開などがあればお聞かせください。

回答

今後の八幡ストーリーについてですが、今年度当初予算にて進めております文化観光解説一体整備事業において、新たなコンテンツを加えることとしております。文化庁からの補助を受け、スポットごとの詳しい解説を英語及び中国語も含めて追加する予定で現在進めているところでございます。

ありがとうございました。

八幡ストーリーは発表されてそのままになっているかと思ったのですが、新たに観光スポットの解説が加わり、八幡ストーリーが大変グレードアップすることによりうれしく思います。観光も絶えず動く、動かしていただく。そのような観光であってほしいと要望させていただきます。

空中茶室閑雲軒
新たなストーリーの展開
観光資源を磨き上げる

観光への取り組み 再質問

効果的な観光の発振について

アフターコロナの観光は、京都府全体の観光地が横一線に置かれています。

時代の変化とニーズを踏まえた早い対応が必要です。現在もツイッター等で、八幡の日常のよさを発信していただいておりますが、これも評価していますが、観光の発信や市のツイッターなどの発信も含めて、様々な媒体や部署からの発信が、何か一つのテーマやキャッチフレーズのようなもので発信したほうがより効果的ではないかと考えております。

例えば八幡市はあなたが来られた日に最高の感動があります。感動の日八幡など、様々な部署から色々な媒体から発信するときの何か大きなテーマのようなものについて、お考えをお聞かせください。

また、市内観光事業者にも同じテーマで発信してもらうことができれば、なお一層よいと思いますが、いかがでしょうか。

回答

共通のテーマでの発信についてですが、本市の観光を中心とする発信には、八幡市駅前整備等観光町まちづくり構想で決まったブランドコンセプト「茶文化薫る八幡さんの門前町、神と仏、三つの川、人と人が出会うまち」及びキーメッセージメントとして観光のまち八幡があります。

これらのキャッチコピーは発信の角繰り返し打ち出すことが有効と考えておりますことから、関係課で構成される観光基本計画庁内推進委員会で、意識の共有に努め、必要に応じて様々な部署、媒体から発信してまいりたいと考えております。また、市内事業者については、観光庁の域内連携促進事業等においてブランドコンセプトを共有していきたいと考えております。

ありがとうございました。

共通の大きなテーマでの発信についてもご答弁を頂きました。

長引くコロナの影響で観光の形もさま変わりしていくと考えます。観光の発信や市のツイッターなどの発信も含めて、様々な媒体や部署からのキャッチコピーを発信していただき、効果を出していただくことを願っております。見るだけの観光ではなしに、見て幸せになる観光を大切に事業を続けていただきますように要望とさせていただきます。

以上で再質問を終わります。ありがとうございました。